



枯れた白藤の穂

切ない・・・ 白藤4回目の稲刈り
猛暑と虫のダブルパンチで収穫大幅減のピンチ!!
天候に翻弄される農業の実態を目の当たりにし呆然自失

倒れた白藤の田んぼ。丸は8月11日の白藤の穂。この時は白く輝いていた。このまま育てば大豊作の予感がしていたが・・・



白藤を枯らした虫「メイチュウ」。茎を食い破り繁殖する。白藤の田んぼ全面に広がり被害を拡大させた

○ 環境に優しい減農薬農法の厳しさを実感 ○

「青春18キップ」が使える最終日の9月10日。いつもの通り白藤メンバー4名が各駅停車を乗り継ぎ東京から新潟へ颯爽と来県。しかし・・・彼女たちを待ち受けていたのは農業の厳しい現実でした。

白藤は環境に優しい減農薬栽培（新潟県では一般的に9～10回農薬を使用）で除草剤1回のみで栽培しています。しかし、環境に優しい農法では害虫の発生などのリスクが伴います。今年は猛暑で通常の年の栽培と違い稲が暑さで弱りました。そこに、「メイチュウ」という害虫が侵入し白藤の田んぼを襲いました。農薬で予防や防除をすれば退治ができるのですが、減農薬栽培にこだわり被害が広がりました。

今回の田んぼの状態では通常の2割程度しか収穫が出来そうにありません。今年の白藤郷（日本酒）、白藤ビール、そして、新たな商品開発にも赤信号がとまります。大ピンチ！！。自然との共存を目指す農家とともに歩む白藤プロジェクトの試練です。学生たちは厳しい自然・農業の現実を目の当たりにし、生産現場を理解し消費者に伝える大切さを認識しました。そして、食育の重要性を噛み締め決意を新たにしました。



枯れた白藤の田んぼにショックを受ける学生たち。テンションが下がり元気が出ない・・・。



田んぼの雑草「クサネム」の種。マメ科の雑草で、お米に混入すると除去するのが難しく厄介者。農薬を使用すれば退治できるのですが・・・。



刈り取った稲をハザカケに。昨年の稲は堅くて丈夫でしたが、虫にやられて枯れているしすぐに切れる。ワラジが作れるか・・・不安です。



阿部信行さんのコシヒカリの田んぼでコンバインを運転。農機具の大きさと一瞬で米を刈り取る能力にビックリ！



【 問い合わせ先：(有)エコ・ライス新潟 豊永有(トヨナガ ヲウ) 】

TEL 0258-66-0446 FAX 0258-66-0447

<http://www.rice-shirafuji.com> e-mail eco-net@nekonet.ne.jp

白藤HPに学生の手作りブログも好評更新中。